

みえる/みえない環境問題 新しい協働における「地域力」と行政の あり方

首都大学東京大学院人文科学研究科
社会学専攻博士後期課程
せたがや自治政策研究所特別研究員
岩田 香奈江

2008/1/31

本日のテーマ

みえる/みえない環境問題
...「環境問題」の多様性



問題の整序が必要

- 「新しい協働」の中で地域コミュニティが環境問題にどう取り組めるのか？
- その中で、行政はなにをすべきか？

2008/1/31

新しい協働とは？①

- 世界規模での経済システムの変動
福祉国家の限界→国家が担う機能の縮減
- 「三位一体の改革」
権限の下位自治体への委譲
官・民の「協働」の強調

2008/1/31

新しい協働とは？②

- 地方公共団体の現状
権限委譲され、担わされる機能は増加。
税収の増加は見込めない。
(あるいは税収減が予測される場所も)



住民たちの自発的な活動に多大な期待

2008/1/31

新しい協働とは？③

- 新しい協働＝住民自治の推進？
「行政と市民が対等な立場で協力し合う関係づくり」が必須。



問題の公共化が重要

「地域」で公共化できる環境問題

＝みえる環境問題

2008/1/31

日本の地域社会の特徴

- 都市化の進行
 - 専門機関の発達
 - 行政機構への依存（日本の都市の特徴）
- 地域コミュニティがみえにくい。
 - 地域の共同の問題を自分たちで解決する基盤が弱い。

2008/1/31

行政がすべきこと① 問題の公共化にむけて

- 多様なエージェントが対等に話し合う場を用意する
(例) 町会・町会連合・NPO・ボランティア組織・PTA
...商工会・住民(夜間・昼間人口)・事業者



人々が**共通の問題**として認識
「みえる」環境問題に

2008/1/31

コミュニティベースの 環境問題取り組み事例

- 上北沢桜並木会議
「並木の維持保全に住民と行政の協働で取り組むとともに、これをきっかけとして地域のまちづくりを考え、「桜を見守るコミュニティ」をつくっていこうという取り組み」
- 主な活動
桜並木の保全／年4回の「桜並木通信」の発行
などの広報活動／道路計画の検討／
路上喫煙禁止地区制定運動など

2008/1/31

活動が生まれた経緯

2003年 烏山ネット・わあーく・ショップで上北沢駅前の桜並木保全に関する問題が提起されプロジェクトチームができる。

※烏山ネット・わあーく・ショップ

...世田谷区烏山支庁にて開かれているワークショップで、住民と行政との協働を可能にする「場」をつくろうという試み。問題ごとにプロジェクトチームを組み様々な活動を行っている

2004年 上北沢住民を主体とし、目的の一つに「コミュニティの活性化」を加えられ、現在の活動にいたる。

※2006年9月のヒアリングの時点で、会員数は約100名。



上北沢桜並木会議ホームページより
<http://www.sakuranamiki.org/>

上北沢桜並木会議が昨年度(平成18年4月～19年3月)活動した内容です

世田谷区公益債既世田谷まちづくりファンド助成事業

テーマ	上北沢桜並木保全と地域コミュニティ作り	2004助成金額 27.6万円 2005助成金額 33.6万円 2006助成金額 37.8万円
4月1,2日	桜祭りー昔の上北沢風景写真の展示、Tシャツ販売、アンケート実施	 9月 桜 実態調査及び診断  10月～12月 落ち葉清掃活動  11月 文化祭ー講演、表彰、歴史地図展示  12月 お汁粉パーティー
4月11日	第2回定例会議ーアンケート結果中間報告	
4月15日	#17年度世田谷区まちづくりファンド活動報告発表会	
4月下旬	第3回アンケート調査、最終集計発表、1800配布、93回収	
5月7日	桜並木にて養蚕コスプレパレード実施	
5月8日	向山総合支所との懇談会(区の組織変更に伴う新任の方に桜並木の現状説明)	
5月9日	第2回定例会議ー区との組織変更、アンケート調査の結果報告	
5月10日	世田谷まちづくりファンド審査会で2006年度助成(37.8万円)決定	
5月13日	第24回定例会議ー管理委託地問題話し合	
7月8日	<くたちら桜守>訪問、『土壌生物と土壌の形成』のセミナー参加	
7月11日	第25回定例会議ーくたちら桜守について禁止推進>報告 「桜並木通信」10号発行	
7月23日	上北沢桜並木会議第3回総会 発行	
8月8日	第26回定例会議ー看護学校跡地利用の問題、前上北沢地区の指定、前上北沢地区自治会と上北沢地区、世田谷区、世田谷区、(区)に参加	
8月12日	第27回定例会議ー桜の愛護調査とセミナー、上北沢文化祭、桜並木の駐車問題	
8月19日	くたちら桜守禁止地区指定のキャンペーン スタート(9月～3月合計20回)	
8月18日	桜の愛護調査(午前)とセミナー(午後)	
10月15日	落葉清掃活動開始 毎週木・日曜日実施	
10月17日	第28回定例会議ー路上落葉地区指定に向けて、桜並木の道路問題	
10月21日	ファンド活動報告	
11月4,5日	文化祭ー上北沢、桜並木の歴史地図展示、石井樹木講演会「桜並木の不思議」	
11月10日	小学校で表彰ビデオ上映、展示	
11月14日	第29回定例会議ー松沢病院3研究所新設問題	
11月22日	表彰式、石井樹木講演会による各様方診断	
11月29日	各地域訪問(独立にて、桜守各々の考えや今後のついで懇談会参加)	
11月12日	第30回定例会議ー松沢病院説明報告会	
12月10日	落葉清掃 最終日、お汁粉パーティー(講師は、小学生、他地域支援者含む延べ17日、約250人の参加)	
1月16日	第31回定例会議ー松沢病院の問題、桜並木道路問題、「桜並木通信」11号発行	
1月28日	世田谷区議員による桜並木調査に向けて	
1月28日	上北沢つくり構想(区主催)合同スタート	
1月28日	花笠観音堂とセミナー(くたちら桜守参加、石井樹木医師38名)	
1月17日	世田谷区トラスト街づくり地域風景資産の選定>会議参加 「桜並木通信」12号	
2月20日	第32回定例会議ー桜まつり参加内容検討 発行	
3月4日	路上落葉地区指定のキャンペーンバード上北沢町内巡回	
3月10日	松沢病院説明会(資金主催)	
3月13日	第33回定例会議ー道路専断変更問題、桜まつり	
3月16日	FM世田谷出演	
3月31日	桜祭り(～4月1日)	

上北沢桜並木会議ホームページより
<http://www.sakuranamiki.org/>



区画番号	区画名称	調査状況	調査結果	備考	調査日	調査者
桜 1	真杉	良好	桜並木が健全に生育している	調査結果、記録簿記入済	3/1	岩田 香奈江
桜 2	照鏡は少ない	照鏡は少ない	桜並木の生育がやや悪化している	調査結果、記録簿記入済	3/1	岩田 香奈江
桜 3	多少問題あり	多少問題あり	桜並木の生育に若干の問題がある	調査結果、記録簿記入済	3/1	岩田 香奈江
桜 4	深刻あるいは健康懸念	深刻あるいは健康懸念	桜並木の生育に深刻な問題がある	調査結果、記録簿記入済	3/1	岩田 香奈江
○	枯死する桜木	枯死する桜木	桜並木の一部が枯死している	調査結果、記録簿記入済	3/1	岩田 香奈江
□	調査中で枯死中の桜木	調査中で枯死中の桜木	桜並木の一部が調査中である	調査結果、記録簿記入済	3/1	岩田 香奈江
△	若木(6年以内)	若木(6年以内)	桜並木の一部が若木である	調査結果、記録簿記入済	3/1	岩田 香奈江
×	桜並木の切り株が、切り株なく桜木が植込み	桜並木の切り株が、切り株なく桜木が植込み	桜並木の一部が切り株である	調査結果、記録簿記入済	3/1	岩田 香奈江

上北沢桜並木会議ホームページより
<http://www.sakuranamiki.org/>



桜並木会議の特徴

- **地域の文化的特性**
...大正期から昭和にかけて「文化住宅」がつけられた土地柄、地域に愛着をもった2代目、3代目のホワイトカラー層が居住
- **「住民の総意」の強調**
...町会や商店街との連携や地域住民に対するアンケートなど
- **行政との適切な距離感**
...区行政に対して完全に対等な立場から意見をぶつける一方で、まちづくりファンドなど「上手」に行政を利用する

行政がすべきこと① 問題の公共化にむけて

- 多様なエージェントが対等に話し合う場を用意する
(例) 町会・町会連合・NPO・ボランティア組織・PTA
...商工会・住民(夜間・昼間人口)・事業者



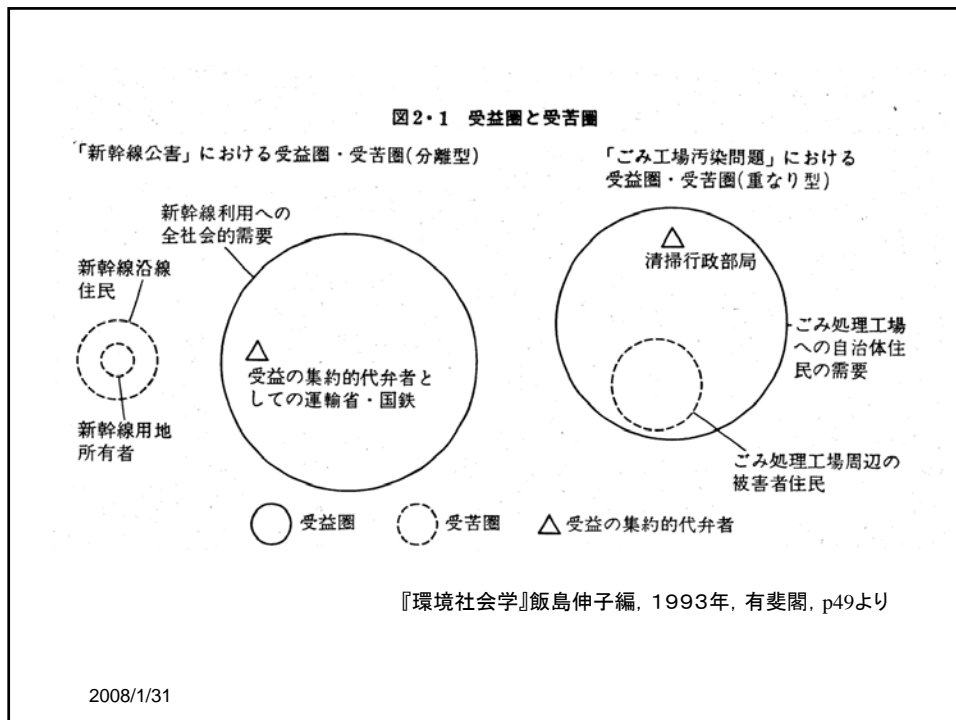
人々が**共通の問題**として認識
「みえる」環境問題に

2008/1/31

行政がすべきこと② 利害関係の調整

- 環境問題は利害対立を生みやすい
(参考: 受益権と受苦権)
 - コンセンサスを得るための、基本的な指針をはっきりさせることが必要に。
 - 行政の介入のしかたも慎重さが要する。
(つかずはなれず)

2008/1/31



**行政がすべきこと③
地域の実態を把握**

- 住民に任せきりにするだけではだめ。
...地域コミュニティは時間とともに大きく変容する。

↓

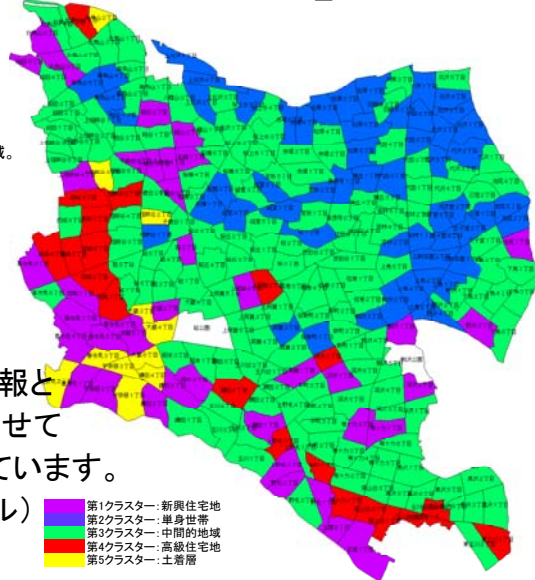
『地域力』の測定の必要性。

2008/1/31

世田谷区の「地域力」

世田谷区の各町丁を以下のように類型化

- 第1クラスター...新しく流入した家族が多い地域。
相対的に階層は高くない。
- 第2クラスター...単身世帯が非常に多い地域。
- 第3クラスター...家族と単身世帯が混住する、中間的な地域。
- 第4クラスター...高階層で持ち家比率が高い、高級住宅地。
- 第5クラスター...自営・ブルーカラーが定着している地域。
土着層が多い。



※せたがや自治政策研究所

では、右記のような地図情報とアンケート調査を組み合わせ、『地域力』の測定を目指しています。

(参考: ソーシャル・キャピタル)

- 第1クラスター: 新興住宅地
- 第2クラスター: 単身世帯
- 第3クラスター: 中間的領域
- 第4クラスター: 高級住宅地
- 第5クラスター: 土着層

まとめ①

みえる環境問題の解決のために

- 環境問題の公共化を促進するしくみづくり
- 利害調停するための明確な指針作り
- つねに地域の実態を把握すること

2008/1/31

みえない環境問題①

- ベックの「リスク」論
...世界レベルでの環境問題
(例:温暖化、化学物質、放射能...)
- 国境／階級を超えて、影響を及ぼす。
- 科学的に因果関係を特定するのが難しい。
- マスメディアによってのみ、リスクが周知される。

2008/1/31

みえない環境問題②

- みえない環境問題
=地域レベルでは公共化できない
- 国家レベルでの政治により、何が「問題」か決定される
- 国家への監視が必要に。
→欧米ではNGOやNPOが大きな役割を果たしている。

2008/1/31

まとめ②

みえない環境問題の解決のために

案①「環境にやさしい」ライフスタイルを啓発していく。

→「みえない」問題をどう認知させるか？

案②経済合理性に組み込む

→住民・あるいは国民の啓発よりも、
税制の変更など、企業に働きかえるほうが
有効か？

※いずれにしても行政は説明責任は果たすべき。

2008/1/31

結論

- 環境問題をきちんと整序する
→どのレベルで**公共化**できるのか
- 地方公共団体は、公共化の基盤を
しっかりつくる
- 中央政府は、因果関係を明確にし、
説明責任をきちんとはたす
→**住民あるいは国民に丸なげしない**

2008/1/31